磐田のびやか保育園　自己評価

2022．03．01

		現在の取組及び状況	判定	今後の改善計画・目標
保育内容				
全体的な計画の作成				
1	保育所の理念、保育の方針や目標に基づき、子どもの心身の発達や家庭及び地域の実態に応じて全体的な計画を作成している。	全体的な計画は理念や方針に基づき子どもの環境や発達と照らし合わせながら年間指導計画、月・週案、個人票の作成をしている。	A	さらに、食育計画、地域との交流の充実を図れるように工夫して、全体的な計画を保育士全員で見直す。
環境を通して行う保育、養護と教育の一体的展開				
1	生活にふさわしい場として、子どもが心地よく過ごすことのできる環境を整備している。	安全点検、清掃、消毒は毎日行っている。 温度・湿度の確認をしている。 子どもの動線を考えた配置、保育の工夫を行っている。 ヒヤリハットをあげ、改善策を話し合うなど、事故防止に努めている。	B	子どもの目線で考え、危険個所がないか常に意識していく。ヒヤリハットは、事故を未然に防げた例ととらえ、沢山の報告をあげる。子供の姿を予想し　"気づく"ことで保育士の資質向上を、目指す。
2	一人ひとりの子どもを受容し、子どもの状態に応じた保育を行っている。	毎月の子供理解、会議で、一人ひとりの子どもの発達や家庭環境に合わせて援助ができるように職員間で共通理解している。	A	個々を受容し、愛情豊かに関わることで、安定した気持ちで過ごせるようにする。
3	子どもが基本的な生活習慣を身につけることができる環境の整備、援助を行っている。	子どもが主体的にできるような援助や認める言葉かけをし自信へとつなげている。	A	一人ひとりの発達の課題を明確にし、職員間で共通理解をする。
4	子どもが主体的に活動できる環境を整備し、子どもの生活と遊びを豊かにする保育を展開している。	一年を通して、経験させたいことを職員で話し合い、その時期ならではの遊びを取り入れられるようにし工夫している。 静と動のバランスが取れるよう工夫している。	A	異年齢保育ならではの良さを生かせるようにする。 自発的に遊びができるように見直しをしていく。 集中出来る遊びコーナーの新設。
5	乳児保育（０歳児）において、養護と教育が一体的に展開されるよう適切な環境を整備し、保育の内容や方法に配慮している。	家庭との連携を密にし,一人ひとりの環境や生活リズムに沿って保育ができるようにしている。保育士と愛着関係を築き、共感的コミュニケーションを取ったり、安心して探索活動が出来るように配慮する。	A	連絡帳や、ホワイトボードの活用で一人ひとりの生活のリズムの把握を全員で共通理解していく事で、常に生理的欲求を満たし、安心して過ごせるようにする。スキンシップや1対１の絵本の読み聞かせの実践。
6	３歳未満児（１・２歳児）の保育において、養護と教育が一体的に展開されるよう適切な環境を整備し、保育の内容や方法に配慮している。	保育士との信頼関係のもとで自発的に活動したり友だちとの関わりを楽しんだりできるよう環境や援助を工夫している。 子どものちょっとした変化を見逃さず、職員間で共有したり、保護者に伝えている。	B	自分がやりたい遊びがじっくりできる環境の配慮とともに、友だちとの関わりが持てる遊びの環境の工夫を継続する。
7	障害のある子どもが安心して生活できる環境を整備し、保育の内容や方法に配慮している。	保護者や担当医と連絡を取り合い、園でできることを考え実行している。	A	必要に応じた関わり方や環境の整備をしていく。
8	それぞれの子どもの在園時間を考慮した環境を整備し、保育の内容や方法に配慮している。	在園時間の長い子は夕方以降はゆったりとした時間を過ごし、保育士とのスキンシップをとり、心の安定を図るようにしている。	A	夕方以降は少人数になるため、安心して遊べる環境を工夫していく。
健康管理				
1	子どもの健康管理を適切に行っている。	子どもの体調の変化や怪我に気付いたら、職員間で把握し、状況により保護者に連絡。その後の様子をしっかりと見ていくようにしている。 午睡チェックを行い、うつぶせ寝は絶対にさせない。	A	引き続き子どもの不調や怪我の対応を職員間で共有するように留意する。
2	健康診断・歯科健診の結果を保育に反映している。	年２回ずつの検診を行い記録している。 異常があった園児の保護者には連絡し場合によっては受診を勧めている。 ２歳児には歯みがきを行っている。	A	異常があった子のその後の様子や再受診の記録をする。
3	アレルギー疾患、慢性疾患等のある子どもについて、医師からの指示を受け適切な対応を行っている。	担当医や園務医と連絡を取り合い、対応を伺ったり、園での様子を伝えるようにしている。 保護者との連携を密に取り、リハビリなどの受診内容を記録に記入してもらい園でも把握して保育でできるものは取り組めるようにしている。 アレルギー対応マニュアルを作成している。	B	アレルギー対応について研修等を通して全職員の周知を図る。
食事				
1	食事を楽しむことができるよう工夫をしている。	自分たちで育てた野菜が給食で食べられるようにしている。 一人ひとりの食欲に応じて量の加減をし、完食できた満足感が味わえるようにしている。	A	継続して、苦手な食べ物がある子には無理強いせず、食べられた時に十分認める言葉かけをし、楽しい雰囲気で食事ができるようにする。 行事食の充実を図る。
2	子どもがおいしく安心して食べることのできる食事を提供している。	一人ひとりの発達に応じて食材や形態を工夫している。 季節の野菜や行事食を取り入れている。	B	月1回、食育の具体的な計画を記録していく。
子育て支援				
家庭との緊密な連携				
1	子どもの生活を充実させるために、家庭との連携を行っている。	登降園、連絡帳で保護者との情報交換を密に行っている。 参観会を行っている。	A	少人数保育の良さでもある、全職員で子どもを見ているという安心感を保護者に感じてもらえるよう、受け持っている子以外の保護者にも積極的にその子の様子を伝えられるようにする。
保護者等の支援				
1	保護者が安心して子育てができるよう支援を行っている。	保護者と信頼関係を築くよう、積極的に話しかけ、相談しやすい雰囲気を作るようにしている。	A	個人面談は希望者だけでなく、全園児と行うようにする。
2	家庭での虐待等権利侵害の疑いのある子どもの早期発見・早期対応及び虐待の予防に努めている。	子どもの心身の状態や保護者の養育状況を把握している。 虐待の疑いのある子への対応マニュアルを作成している。	A	虐待の疑いのある子の早期発見・対応・予防についての全職員の周知を徹底する。
保育の質の向上				
1	保育士等が主体的に保育実践の振り返り（自己評価）を行い、保育実践の改善や専門性の向上に努めている。	保育日誌、個人票の記録を行っている。 自己評価を行っている。	B	職員間で保育の振り返りや改善点を話し合う機会を増やし、早期に保育内容に反映する。